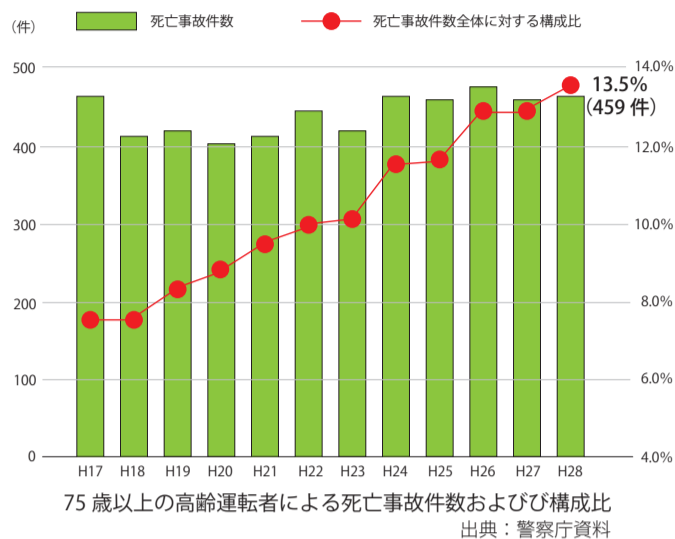


## SJ Interview

## SJ インタビュー



早稲田大学名誉教授 石田敏郎さん

## 高齢者の特性をふまえ、運転リスクへの対応や運転免許制度のあり方について幅広く検討

今年6月、警察庁が「高齢運転者交通事故防止対策に関する有識者会議」の提言をとりまとめた。同会議は昨年11月の「高齢運転者交通事故防止対策に関する閣僚会議」における総理指示をふまえ、警察庁が設置。高齢者の医療や福祉、自動車工学、交通心理学、行政法などの専門家や団体の代表者ら17人の有識者が1月から5回にわたり今後の方策について議論を重ねた。有識者委員の一人として参加し、同会議の座長を務めたのが早稲田大学名誉教授の石田さんだ。石田さんの専門は安全人間工学で、人間工学的な事故分析の方法や認知心理学的なヒューマンエラー対策について研究を行ってきた。交通死亡事故件数全体が減少傾向にある中、75歳以上の運転者による死亡事故件数は横ばい傾向で、その構成比率は上昇している。こうした死亡事故の特徴を分析した上で、「改正道路交通法の確実な施行」「認知症を始めとする運転リスクとそれへの対応」「先進安全技術等」「運転免許証の自主返納等」というテーマで今後の方策をまとめた石田さんは説明する。

改正道路交通法の確実な施行に向けての課題は、認知症に係る医師の診断を受ける対象者の増加である。「診断を行う協力医師の確保に向けた取組みと、認知症の診断に係る訴訟リスクを含め、医師が抱える様々な不安を払拭していくことが

必要です」と石田さんはいふ。他方、高齢者講習の受講待ち期間（予約から受講するまで）の長期化も課題として挙げられ、都道府県公安委員会の直接実施による期間短縮の推進を提言している。

### 個々の能力に応じて補償運転を促すことが必要

有識者会議では、認知症を始めとする高齢者の運転リスクを、認知症、視野障がい、その他加齢に伴う身体機能の低下という3つの論点に整理し、それぞれへの対応を検討。認知症については認知機能と安全運転の関係に関する調査研究の実施、認知症のおそれがある者への早期診断・早期対応、視野障がいについては視野と安全運転の関係に関する調査研究の実施、視野障がいに伴う運転リスクに関する広報啓発活動の推進が必要だと結論づけた。「視野障がいは、自分では気づきにくいので、少しでも異常を感じたら眼科医の診察を受けてほしい」と石田さんは訴える。その他加齢に伴う身体機能の低下では、加齢に応じた望ましい運転のあり方等に係る交通安全教育等の推進、高齢者の特性等に応じたきめ細かな対策の強化に向けた運転免許制度のあり方等に関する調査研究の実施を必要な方策とした。

「高齢運転者には補償運転を促すことが

重要だと思ひます。自分から危険な状況をつくり出さないように、運転する時間帯や場所などを選択し、加齢による運転能力の低下を補うようにするのです」。高齢者講習は70歳以上が対象だが、石田さんは70歳からでは遅いと考えている。「60代のうちから段階的に受講できるような仕組みが理想的です。より早く自分の運転能力がどのように変化しているかを知っておくことで、10年後、20年後がイメージしやすくなり、将来に備えることができます。認知症や眼の病気の早期発見にもつながるでしょう」。

### 安全運転サポート機能について高齢者に正しく理解してもらうための啓発を

石田さんが最も期待を寄せているのが、先進安全技術の活用だ。政府は自動ブレーキおよびペダル踏み間違い時加速抑制装置を搭載した自動車を「安全運転サポート車（愛称：セーフティ・サポートカー S）」と定義し、官民挙げて普及啓発していく方針を示している。安全運転サポート車の普及によって、正面衝突等・人対車両・追突等、ブレーキとアクセルの踏み間違いを原因とする死亡事故の抑止効果が見込まれるのだ。ただし、課題もあると石田さんは指摘する。「こうした運転支援システムは、条件によっては適切に作動しない場合があります。です

から、機能の限界や使用上の注意点を高齢者に正しく理解していただかないといけません。機能を過信せずに、自分が責任を持って安全運転しないといけないことを教育する機会が必要です。例えば、安全運転サポート車を購入した高齢者は最寄りの自動車教習所などで運転支援システムの正しい使い方を体験しながら学べるようになると思います」。このような安全運転サポート車に限って運転できる限定条件付免許の導入など免許制度の見直しについても、有識者会議では提言している。

運転免許証の自主返納は、最終的な手段だと石田さんは位置づけている。「安全運転教育や先進安全技術で支援しても、客観的に運転リスクが高まっていると認められた方は運転免許証を返納していただくしかありません。しかし、東京などの都市部以外では返納した後の移動手段の確保が課題で、誰も答えを持っていないのが現実です。高齢者の外出は時間帯や場所が限定されますから、今後は乗合タクシーやタクシー定期券などを活用しやすくするための環境整備が必要ではないでしょうか。高齢者の問題はみんなの問題でもあるので、社会全体で高齢者の生活を支えていくという視点を忘れてはなりません」。

## 2017 トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉

主催：交通教育センターレインボー埼玉、交通教育センターレインボー和光

内容：事例発表／(株) C&F ロジホールディングス 熊坂義明氏

帝石パイプライン (株) 後藤貴浩氏

講演／事故を減らすための安全運転教育、2つの知識と3つの定石

東京海上日動リスクコンサルティング (株) 北村憲康氏

<お問い合わせ先>

交通教育センターレインボー埼玉 フォーラム事務局 ※月曜日定休 TEL：049-297-4111

# 11/24 開催

参加費●無料

## テーマ「安全運転へのアプローチ」

日時：2017年11月24日(金) 午後1時00分～午後4時30分(予定)

会場：埼玉会館小ホール(埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4・JR浦和駅西口より徒歩6分)

定員：400名(予約制)

申込：下記ホームページより参加申込書を印刷の上、FAXにてお申込みください。

<http://www.tec-r.com/>

交通教育センターレインボー埼玉

検索

締切：2017年11月10日(金)(定員に達し次第、締切)